

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2674100272
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム音羽
所在地	〒607-8066 京都市山科区音羽森廻り町34 (電話) 075-501-1121

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年6月26日	評価確定日	平成20年8月18日

【情報提供票より】(平成20年4月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.4 人

(2) 建物概要

建物構造	木造鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	50,000 円	
敷金	有() 円) 無()			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 200,000 円) 無()	有りの場合 償却の有無	有() 無()	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,270 円	

(4) 利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86 歳	最低	72 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	音羽病院、音羽クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和グループホームのひとつである当該ホームは、京阪四之宮駅より程近い場所に位置し、神社や小学校に隣接した環境に恵まれた住宅街の中にあります。管理者はじめ職員は「地域に根ざしたホームにしたい」との強い信念を持って日々の支援を行っています。ホーム新聞を地域に発信することを中心にさまざまな取り組みを通して、現在では地域に無くてはならない存在になっています。また利用者はホームの中で、介護されるという立場では無く、家族の一員としての役割を自ら果たしています。本来のグループホームの生活の意味をこのホームに見ることが出来ます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の改善点である市との連携については、管理者や法人担当者が市を訪れる際、ホーム新聞を持参したり、ホームの現状報告をしてホームを理解してもらう努力をしています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	今年度の自己評価票はホーム会議で全職員で話し合い、管理者がまとめて作成しました。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	2ヶ月に一度、町内会より会長・会計担当者、民生委員、地域包括担当者、職員等が参加して開催されており、ホームの現状報告やヒヤリハット報告がなされています。また地域住民にホームがどう映っているかをアンケートを通じて答えてもらう提案を町会長を通じて行っており、その回答についても参加者で話し合われています。議事録はホーム新聞に掲載し、参加できない家族や地域の方にに発信しています。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	年2回家族にアンケートをとり、苦情、要望を聞いたり、苦情箱をリビング入口に設置して意見を聞いています。また忙しい家族のために年一回デイサービスのフロアを借りて盛大な食事を開催し、意見交換できる場所を提供しています。出された苦情・要望については職員間で話し合い、すぐに対処するよう努めています。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームを地域に開かれた場所にするため、職員はまず周りの木を切り、畑を作り、中の様子がよく見えるようにしました。町内会に入会し回覧板に2ヶ月に一度発行する写真入りのホーム新聞を付けて回してもらったり、地域の幼、小、中学校に持参するなどの取り組みがなされています。また地域の中学生の体験学習を受け入れたり、地域の人々を招いてバーベキュー大会を開催するなど、地域密着型サービスを実現しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に支え合い思いやりの介護を提供します」という事業所独自の理念を作成し、外部者からも見えやすい位置に掲示しています。またホームは地域とのつながりを大切にしており、理念の中にもうたっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者始め職員は、常に理念を念頭に話し合いを重ねたうえでケアにあたっており、時計の針のような動きをする事無く、利用者のペースに合わせ、ニーズに答えられるよう支援しています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームを地域に開かれた場所にするため、職員はまず周りの木を切り、畑を作り、中の様子がよく見えるようにしました。町内会に入会し、回覧板に2ヶ月に一度発行する写真入のホーム新聞を3つの自治会に回覧しています。またホーム新聞は利用者と職員と一緒に地域の幼、小、中学校に持参し、小学校からは学校新聞が送られてくるなど、地域との交流が図られています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の改善点である市との連携については、管理者や法人担当者が市を訪れる際、ホーム新聞を持参したり、現状報告をしてホーム理解を促すよう努力をしています。また今年度の自己評価票はホーム会議で全職員で話し合い、管理者がまとめて作成しました。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、町内会々長・会計担当者、民生委員、地域包括担当者、職員等が参加して開催されており、ホームの現状報告やヒヤリハット報告がされています。また町内会長に依頼し地域住民にホームがどう思われているかをアンケートで答えてもらい、その回答についても参加者で話し合われています。議事録はホーム新聞に掲載し、参加できない家族や地域に発信しています。		

洛和グループホーム 音羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者や法人担当者は折に触れ市担当者を訪ね、ホーム新聞を持参して見てもらったりホームの現状報告をし、関係を深めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	地域に発信するホーム新聞以外に、毎月手書きで利用者の近況報告や介護チェック表、写真などを同封し郵送しています。また来訪時にも家族に報告し、金銭管理については毎月明細書と領収書を送っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族にアンケートをとり、苦情、要望を聞いたり、苦情箱をリビング入口に設置して意見を聞いています。また忙しい家族のために年一回デイフロアを借りて盛大な食事会を開催し、意見交換できる場所を提供しています。出された苦情・要望については職員間で話し合い、すぐに対処するよう努めています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員がストレスを溜めないように、常に話し合い解決しています。職員の離職や移動の時はホーム新聞に載せ、利用者にきちんと挨拶しています。新任の職員には管理者が利用者との間に入り関係づくりをフォローしています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人の年間研修計画に則り、年2回習熟度に合わせた内部研修に参加したり、社協主催の研修に参加しています。その際の研修報告書を作成し、ホーム内でも伝達研修をするなど、ひらめきを持つためにいろいろな研修にチャレンジしています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームに声をかけ、バーベキュー大会や夏祭りなど、お互いのホームの行事に参加し合い交流を図っています。管理者研修会の際にも意見交換して情報を共有しています。また季節ごとに神戸にある他ホームを見学して回り、情報交換するなど、質の向上を目指しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族の協力を得ながら一週間毎日ホームに通ってもらい、お茶を飲みながら1時間ほど他利用者や職員と過ごしてもらい馴染みの関係を築いています。また入院している場合は職員が毎日面会に訪れ、顔を覚えてもらうなど配慮し、馴染みながらの入居を実現されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者がさせられるのではなく、自然に体が動いて共に働けることがホームでの役割であると認識しています。一緒に生活する中で教わったり、いたわってもらいながら支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントはセンター方式を十分使いこなして職員間で情報を共有しています。利用者の思いや希望は入浴時や夜勤の時など1対1になれるときに聞き出し、その意見が反映されるよう取り組んでいます。人前ではなかなか口に出せない利用者も1対1になると思いを話してくれています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式のアセスメントで情報を収集し、3ヶ月に一度カンファレンスにて職員間で話し合い、場合によっては主治医や訪問看護師の意見を聞いています。介護計画は利用者や家族の希望を踏まえて関係者の意見が反映されたものとなっています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度見直しをしています。見直しの際は家族にもカンファレンスに参加してもらうよう依頼しています。参加できない場合は家族の希望を聞いた上で見直しを行っています。また状態の変化のある時はその都度見直し、介護計画を変更しています。また日々の状態が介護計画に添うように業務日誌に記録して確認しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の受診の際、初診時や治療方針の説明時には職員が家族に同行して支援しています。また誕生日の際の買い物や利用者の洋服やおやつを買いに出かけたり、美術館への外出等、利用者や家族の希望により柔軟な対応を心がけています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に利用者に希望を聞いてかかりつけ医を決めています。以前からのかかりつけ医の利用者もあり、1ヶ月に一度通院しています。利用者は月2回法人の音羽病院に出かけ診察を受けています。また訪問看護の協力を得て24時間医療連携も取れており、利用者の安心を確保しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、ターミナルケアについての指針を家族に説明し同意を得ています。ホームでは出来る限りの支援をする用意があり、家族と相談しながら進めていく方針で関係機関と連携も取れています。ホームでは法人の現任研修の中に看取りの項目を入れ職員のスキルアップを図っており、現在終末期の利用者は夜間和室で過ごしてもらうなど、常に見守りが出来る体制を取っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は排泄時や入浴時はそれぞれの利用者にあった声かけをすることで、プライバシーを傷つけないよう配慮しています。また個人のファイルは書庫に鍵をかけて保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間はまちまちで、朝食は6時半頃から9時頃まで自由に取ってもらっています。内容もパン食、雑炊、ご飯等利用者に応じた形態になっています。一人ひとりのペースで役割をこなしてはソファで休んだり、買い物に行ったりと、自宅からの継続そのままの暮らしがホームにはあります。		

洛和グループホーム 音羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日利用者と職員が相談してメニューを決め、足りない食材の買い物に出かけ、下ごしらえ、調理、味付け、盛り付け、配膳、食事、洗い物とすべて利用者は職員と一緒にこなしています。また利用者同士が助け合いながら一連の作業をしています。庭の畑で取れた野菜が食卓にのり、それがまた話題となる楽しい食事時間となっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後1時から4時半にかけて入浴しています。希望により朝入浴する利用者もいます。どの利用者も二日に一度は入浴できるよう支援しています。入浴しない日は入浴剤を利用した足湯温泉を楽しみ介護計画にも載せています。拒否がある利用者には職員の声かけや職員が交代するなどして対応しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が女性ばかりということもあり、カーテンのすそ上げ、衣類のほつれ直し、野菜作り、掃除、調理と得意な分野で自然な形で役割を果たしています。また毎月食事を兼ね多方面へ外出したり、地域の人々や子供たちを呼んでホームの庭でバーベキューを楽しんだり、地域と共に楽しむことの出来る支援をしています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	向かいが神社で隣が小学校と環境に恵まれ、毎日の散歩も楽しみの一つとなっています。利用者の希望で受診の帰りに喫茶店でお茶を楽しんだり、買い物に出かけたりしています。車椅子の利用者にも1日に一度は外の空気が吸えるよう支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	デイサービスと同じ玄関ですが、鍵は一切かけておらず、門も開かれた状態です。外に出たそうにしている利用者には自由に出かけてもらい、職員と一緒に付き添って対応しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立ち合いの下、昼夜を想定して法人のデイサービスと合同で防災訓練を行い、消火器の使い方の講習もしています。また2ヶ月に一度ホーム独自でも夜間を想定した避難訓練を実施し、けがの対応、緊急時の移動等についてシュミレーションしています。地域の消防とは馴染みの関係が出来ています。		

洛和グループホーム 音羽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の毎回の食事は記録に残し管理しています。水分補給については食事時間以外にもおやつ時や入浴後に摂取できるよう支援しています。またメニューについては法人の検食簿に記入して定期的に法人の管理栄養士に見てもらっています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自慢の畑で季節の野菜を育てたり、長い廊下では写真を見ながら、ベンチやソファで休み休み歩ける工夫がなされています。寮を改良した雰囲気を払拭する為の様々な工夫が随所に見られます。季節感を出すため、利用者に生花を各所に活けてもらったり、テーブルに飾ったりしています。リビングのテーブル中央にカセットコンロを配置することで利用者と職員が輪になって食事作りを楽しむ工夫がみられます。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みで床はフローリングにしたり、畳敷きに出来るようになっていきます。入り口には段差があるため、持ち手をつけ安全に出入りできるよう配慮しています。また家具やベッド、テレビ、仏壇、家族の写真など使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらい居心地のよい居室となるよう配慮しています。		